

観光地域づくり法人形成・確立計画

記入日：令和7年10月3日

1. 観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを ○で囲むこと	広域連携DMO・地域連携DMO・ <u>地域DMO</u>	
観光地域づくり法人の名称	(一財) 観光まちづくり佐伯	
マネジメント・マーケティング対象とする区域	区域を構成する地方公共団体名 佐伯市	
所在地	大分県佐伯市	
設立時期	令和6年2月7日	
事業年度	4月1日から翌年3月31日までの1年間	
職員数	26人【常勤19人(正職員14人・出向等5人)、非常勤7人】	
代表者(トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者) ※必ず記入すること	(氏名) 理事長 池邊 恭行 (出身組織名) 株式会社マルミヤストア	株式会社マルミヤストアの代表取締役社長として、地域の様々な事業者のパイプ役となっており、様々な取組で成果を挙げている。また、佐伯商工会議所副会頭として、地域経済のけん引役を担っている。
データ分析に基づいたマーケティングに関する責任者(CMO：チーフ・マーケティング・オフィサー) ※必ず記入すること	(氏名) 半田 慎二「専従」 (出身組織名) 株式会社 JTB	株式会社 JTB に 32 年間勤務。団体旅行セールスや添乗業務、旅行商品企画、販売促進といったセクションを歴任し、幅広い知識や経験がある。 特に旅行商品企画の分野においては、旅行業務取扱管理者の資格を有しており、着地コンテンツの掘り起こしや磨き上げに精通している。 また販売促進の分野における知見で、データを収集し活用したマーケティング業務を担ってもらう。
財務責任者(CFO：チーフ・フィナンシャル・オフィサー) ※必ず記入すること	(氏名) 山本 弘幸「専従」 (出身組織名) 佐伯市役所	佐伯市に 30 年間勤務。財政、商工振興、観光振興、行政経営、まちづくり部門を経て着任。各種行政制度等に精通しており、持続可能な組織運営のための組織基盤の確立や財源確保に関する検討を行う。
各部門(例：プロモーション)の責任者(専門人材) ※各部門責任者のうち専従の者につ	(氏名) 川崎 雅也 (出身組織名) 株式会社 JTB	株式会社 JTB に 13 年間勤務。在職中は旅行商品の仕入造成、着地型旅行商品の企画から販売、プロモーションを担当。

いては、氏名の右横に「専従」と記入すること	現在はプロモーション活動を中心に国内外の個人、団体の誘客事業の推進責任者として業務に従事。					
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	【大分県佐伯市】 ①観光・国際交流課 さいきツーリズム戦略（2024-2028）、事業提案の実施計画への反映 ②都市計画課、地域振興課 佐伯市市街地グランドデザイン及び実施計画への事業提案の反映					
連携する事業者名及び役割	佐伯商工会議所（商品造成）、佐伯市番匠商工会（商品造成）、佐伯市あまべ商工会（商品造成）、佐伯セントラルホテル（宿泊）、ホテル金水苑（宿泊）、道の駅指定管理者（商品造成）、九州旅客鉄道(株)（二次交通）、西日本高速道路(株)九州支社（二次交通）、(株)JTB（商品造成）、東武トップツアーズ(株)（商品造成）、立命館アジア太平洋大学（商品造成）、大分銀行（地域事業者へのプロモーション）、(株)タイミー（地域雇用開発）					
官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み	【該当する登録要件】①及び② ①理事会 当法人は、宿泊施設、飲食店、農漁業者、交通事業者、商工会等、多種多様な事業者、団体及び個人が会員として参画しており、理事会が意思決定機関となっている。 ②事業推進委員会 メンバーには、会員、地域事業者、学識経験者、行政担当者を参画させ、幅広い知見と情報を共有することで、戦略的かつ持続可能な推進体制を構築している。					
地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組	定期的に住民参加型の食のワークショップを年 24 回程度開催し、直近では令和 7 年 3 月に開催したほか、市民団体交流等を通じて地域への理解を進める。					
法人のこれまでの活動実績	【活動の概要】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業</th> <th>実施概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> 情報発信・プロモーション </td> <td> ①令和 6 年度 JR 九州観光列車おもてなし事業 ・「36ぷらす3」の重岡駅停車時、「ななつ星」の佐伯駅停車時にマルシェを開催 ②令和 6 年度観光情報発信事業 ・観光ナビ（佐伯市観光ホームページ）の運営管理や SNS による情報発信、各種観光パンフレットの管理、ポスターやグッズ等のデザインを行い、広く観光宣伝を実施。 ③令和 6 年度国内誘客事業 ・別府市連携事業 温泉観光地の別府市と連携し、別府を訪れた観光客を佐伯市へ誘客するためのプロモーションを実施 ・公共交通機関連携事業 NEXCO 西日本と連携しサービスエリア等を活用したプロモーションを実施 ・食キャンペーンなど、市内外から集客する魅力あるイベント、交流会の企画実施 ・web を活用した佐伯商品のセールス、飲食店や観光情報発信 ④令和 6 年度自転車活用推進事業 </td> </tr> </tbody> </table>		事業	実施概要	情報発信・プロモーション	①令和 6 年度 JR 九州観光列車おもてなし事業 ・「36ぷらす3」の重岡駅停車時、「ななつ星」の佐伯駅停車時にマルシェを開催 ②令和 6 年度観光情報発信事業 ・観光ナビ（佐伯市観光ホームページ）の運営管理や SNS による情報発信、各種観光パンフレットの管理、ポスターやグッズ等のデザインを行い、広く観光宣伝を実施。 ③令和 6 年度国内誘客事業 ・別府市連携事業 温泉観光地の別府市と連携し、別府を訪れた観光客を佐伯市へ誘客するためのプロモーションを実施 ・公共交通機関連携事業 NEXCO 西日本と連携しサービスエリア等を活用したプロモーションを実施 ・食キャンペーンなど、市内外から集客する魅力あるイベント、交流会の企画実施 ・web を活用した佐伯商品のセールス、飲食店や観光情報発信 ④令和 6 年度自転車活用推進事業
事業	実施概要					
情報発信・プロモーション	①令和 6 年度 JR 九州観光列車おもてなし事業 ・「36ぷらす3」の重岡駅停車時、「ななつ星」の佐伯駅停車時にマルシェを開催 ②令和 6 年度観光情報発信事業 ・観光ナビ（佐伯市観光ホームページ）の運営管理や SNS による情報発信、各種観光パンフレットの管理、ポスターやグッズ等のデザインを行い、広く観光宣伝を実施。 ③令和 6 年度国内誘客事業 ・別府市連携事業 温泉観光地の別府市と連携し、別府を訪れた観光客を佐伯市へ誘客するためのプロモーションを実施 ・公共交通機関連携事業 NEXCO 西日本と連携しサービスエリア等を活用したプロモーションを実施 ・食キャンペーンなど、市内外から集客する魅力あるイベント、交流会の企画実施 ・web を活用した佐伯商品のセールス、飲食店や観光情報発信 ④令和 6 年度自転車活用推進事業					

		・サイクルツーリズム推進に資する事業を展開し、国内外のサイクリストの誘客を図る ⑤クルーズ船受入事業 ・佐伯港に寄港するクルーズ客船の歓迎式典やツアー造成等の乗船客の受け入れ
	受入環境の整備	①令和6年度レンタサイクル事業 ・観光案内所及び観光交流館に設置しているレンタサイクル及び佐伯市が所有するEバイクの利用を促進 ②市街地人と仕事創造事業 ・起業創業支援 ・特産品の開発と販売促進 ・webを活用した市内事業者の魅力発信 ③チャレンジショップ事業 ・開業、創業計画者に対するチャレンジショップの提供
	観光資源の磨き上げ	①令和6年度浦100ツーリズムによる地域再生事業 ・オーガニックマルシェでの出展 - 山の生物をモチーフにしたキーホルダーや鹿革を材料にしたアクセサリーの製作体験ブースを設置 ・西日本高速道路株式会社が実施する同社社員の学びのプログラムモニターツアー受入れ ・福岡市内の商業施設で同社と九州産業大学との共同により期間限定のアンテナショップを設置 ②令和6年度さいき本舗城下堂事業 ・佐伯産品、オーガニック商品を中心にギフト商品やふるさと納税返礼品を企画、販売 ③令和6年度さいきレトリップ事業 ・城下町エリアにおいて「大正ロマン袴着付体験」事業を展開し、海外旅行事業者等へ発信 ④令和6年度お土産物開発販売事業 ・各種グッズの企画開発を進め、観光案内所や観光交流館等で販売

【定量的な評価】令和6年度

【情報発信・プロモーション】

①パンフレット制作

- ・佐伯まち歩きガイド 10,000 部
- ・Saiki Active Trip 繁体字 1,500 部
- ・ " 韓国語 3,000 部
- ・ " 英語、簡体字はデータ修正

①web サイトアクセス数 493,613 件

②SNS フォロワー数 9,179 人

③クルーズ客船受入れ 2 回

④食キャンペーン

- ・日豊海岸岩ガキまつり 実食数 6,242 食
- ・東九州伊勢海老海道 実食数 10,345 食
- ・佐伯あったか鍋フェア 実食数 1,863 食
- ・まぐろフェア 実食数 10,664 食

【受入環境の整備】

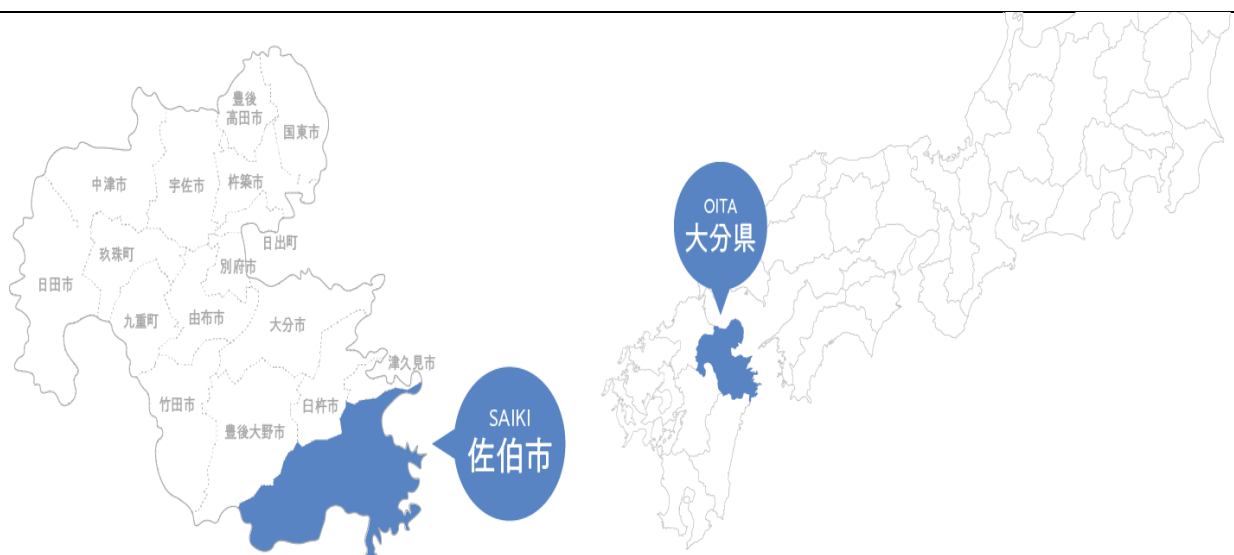
①レンタサイクル 1,139 件（内Eバイク 279 件）

②ツアー誘致

	・日帰りツアー 80 件 (2,139 人) ・宿泊ツアー 7 件 (111 人) 【観光素材の磨き上げ】 ①EC サイト、ふるさと納税返礼品売上額 444 万円 ②佐伯産品開発累積数 10 件 ③着地型商品開発累積数 10 件 ④さいきレトリップ体験者数 269 名 【入込客数】 125 万人
実施体制 ※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること（別添可）。	【実施体制の概要】 （一財）観光まちづくり佐伯の規程により事業推進委員会を設置。同委員会を地域関係者による合意形成の場とし、メンバーには、行政、宿泊業者、飲食業者のみならず、交通事業者、文化財、国立公園、農泊、アクティビティー、農林水産業、商工業等、多様な関係者が参画する官民が密接に連携した運営を実施。 【実施体制図】

2. 観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】



【区域設定の考え方】

平成 17 年に 1 市 5 町 3 村が合併し、新たな「佐伯市」が誕生。中心市街地活性化のため平成 21 年 9 月 17 日に株式会社まちづくり佐伯を設立し、平成 24 年には各地域の観光協会を統合し、一般社団法人佐伯市観光協会を設立。両組織はそれぞれ市域にて、その地域性を活かしながらまちづくり振興、観光振興を行ってきた。

そして、当該区域における観光まちづくりを一手に担い、そして観光地経営の司令塔となるべく、令和 6 年 2 月 7 日に両組織を統合し、一般財団法人観光まちづくり佐伯が設立された。よって当該区域での設定が適切である。

【観光客の実態等】

令和 6 年の観光入込客数は約 125 万人。宿泊客数は約 14 万人、国内宿泊客数は約 13.7 万人。外国人宿泊者数は約 0.3 万人。（出典：佐伯市観光統計調査より）

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

【自然資源】

持続可能な観光地づくりに向けて学べるコンテンツ造成など

①日豊海岸国定公園

鶴御崎灯台、豊後二見ヶ浦、大入島オルレ、蒲戸崎展望台、暁嵐の滝、海の資料館、水の子島海事資料館、丹賀砲台園地、仙崎つつじ公園、空の展望所（シバザクラ）

②祖母傾国定公園

藤河内溪谷、観音滝、夏木山（アケボノツツジ）唄げんか大橋

③番匠川

番匠おさかな館、小半森林公園

【観光施設】

旅行消費の中心

①道の駅

道の駅やよい、道の駅宇目、道の駅かまえ

②キャンプ場

うめキャンプ村、直川憩いの森公園キャンプ場、瀬会公園キャンプ場、小半森林公園キャンプ場、藤河内溪谷キャンプ場、中岳キャンプ場、高平キャンプ場 outdoor lab

【スポーツ施設】

合宿誘致、大会誘致施設

①佐伯市総合運動公園

佐伯中央病院陸上競技場、佐伯中央病院スタジアム、佐伯中央病院市民プール、テニスコート、

多目的広場、弓道場、アーチェリー場、相撲場、遊具広場、佐伯中央病院アリーナ

【イベント】観光消費の機会

さいき桜まつり、ツール・ド・佐伯、つるみ豊魚祭、米水津おさかなまつり、佐伯みなとお魚フェスタ、トンド火まつり

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

佐伯エリア：5施設 収容人数 642人
 鶴見エリア：1施設 収容人数 32人
 蒲江エリア：1施設 収容人数 53人
 上浦エリア：1施設 収容人数 60人
 本匠エリア：1施設 収容人数 95人
 直川エリア：1施設 収容人数 129人
 宇目エリア：2施設 収容人数 122人 合計 1,133人

【利便性：区域までの交通、域内交通】

JR：博多駅から3時間30分、小倉駅から2時間40分、宮崎駅から2時間、大分駅から1時間
 自動車：福岡市から2時間40分、北九州市から2時間20分、熊本市から3時間10分、宮崎市から2時間20分
 飛行機：羽田空港から大分空港まで1時間30分、大分空港からバスで2時間10分
 伊丹空港から大分空港まで1時間

【外国人観光客への対応】

JNTO 認定外国人観光案内所カテゴリー1（佐伯市観光案内所）を運営

3. 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
旅行消費額	来訪者の消費活動の動向を分析し、消費単価向上に繋げるため。	アンケート調査を自主事業として実施。
延べ宿泊者数	宿泊者数の推移を把握するため。	宿泊施設向け調査を実施。
来訪者満足度	来訪者の満足（不満足）に繋がっている要因を分析し、戦略立案に繋げるため。	アンケート調査を自主事業として実施。
リピーター率	リピーター顧客の動向を把握し、戦略立案に繋げるため。	アンケート調査を自主事業として実施。
WEBサイトのアクセス状況	地域に対する顧客の関心度や施策の効果等を把握するため。	当法人 HP を活用して実施。
住民満足度	観光振興に対する地域住民の理解度を測るため。	佐伯市と連携した調査を実施。

4. 戦略

（1）地域における観光を取り巻く背景

当市は、観光客入込客数が年間約125万人の観光客が来訪する地方都市であるものの、最も観光消費に貢献する宿泊客の獲得が難しく観光消費の機会づくりに課題を抱えている。その要因はおんせん県の大分県にあって有名温泉や温泉宿がなく、大分県内の年間宿泊者数が約500万人に対して当市の宿泊客数は約14万人で、九州、大分県に温泉のイメージが根強いことから宿泊は温泉地となる傾向があることが挙げられる。

令和5年度大分県観光実態調査報告書によると、旅行先に大分県を選んだ理由のトップが「温泉に魅力を感じる」（34.6%）という回答と県内での宿泊日数は、1泊（66.3%）が最も多くなっている。当市は温泉という大分県最大の観光コンテンツがないエリアであることに加えて、大分県南部の宮崎県との県境に位置することから大分県内の有名観光地から訪れていただくには、温泉との相乗効果が見込める観光コンテンツや温泉と同等の魅力的な観光素材が求められる。

また、近年、行政、観光協会、民間で観光の推進を行ってきたが、当市においては県内の有力な観光地と比較して観光事業者は多くなく、観光でのまちづくりという面では遅れている状況にある。加えて人口減少に伴い各種産業の従事者も減少していることから、観光まちづくり法人として観光とまちづくりの一体的な展開による相乗効果によって地域の稼ぐ力を醸成し、地域産業の維持発展に寄与することで、地域に貢献する。

（以下国勢調査資料より）

第1次産業就業者 平成22年 3,106人 ⇒平成27年 2,864人 ⇒令和2年 2,412人
 第2次産業就業者 平成22年 9,231人 ⇒平成27年 8,317人 ⇒令和2年 7,888人
 第3次産業就業者 平成22年 21,005人 ⇒平成27年 20,822人 ⇒令和2年 19,464人

（2）地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	強み (Strengths) ・海・山・川すべてがそろっている自然環境 ・新鮮な海産物、農作物	弱み (Weaknesses) ・温泉資源がない（鉱泉のみ） ・認知度が低い ・二次交通
外部環境	機会 (Opportunity) ・延岡一佐伯間高速道路無料 ・有名観光地（別府、由布院）まで車で1時間	脅威 (Threat) ・人口減少による産業の衰退

※上記に加え、PEST分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入（様式自由）。

（3）ターゲット

○第1ターゲット層 福岡県、大分県、宮崎県の20代～40代
○選定の理由 さいきツーリズム戦略2019～2023では20代～40代の女性をターゲットに事業を展開。同戦略において2024年～2028年版では年代別のターゲット設定がされていない。 しかし令和6年度に市内宿泊・観光施設にて実施した観光アンケートでは全世代において大半がリピーターの中で20代、30代では「初めて佐伯市へ訪問した」と回答した割合が高くなった（11%～14%）この結果から新規顧客獲得に向け、若年層をターゲットとした事業を展開する。公共交通機関連携事業では「まち推しグルメ」企画でターゲット層に向けた宣伝・広告を実施し、令和6年度同事業でのアンケートでは、大分県（45.7%）、福岡県（44.2%）の利用者となっており、女性の割合が61.2%で、20代～40代が55.8%である。 引き続き同世代をターゲットとすることで、次に掲げる50～70代（家族世代）との相乗効果を期待する。
○取組方針 これまでの事業実績に基づき、事業構築を行うとともにアンケート結果などに基づきPDCAサイクルを回す。
○第2ターゲット層 福岡県、大分県、宮崎県の50代～70代

○選定の理由 第2ターゲット層については、観光アンケートにおいて佐伯市のコアユーザーである。アンケート結果によると大分県（45%（佐伯市除く））、福岡県（16%）、宮崎県（8%）で上位3位を占める。さらに50代25.7%、60代24%、70代3%と50代～70代が52.7%を占めることから、ボリューム層の満足度向上のため、観光消費額の向上を目指す。 ○取組方針 ターゲット層の行動からニーズを掘り起こし、満足度向上を図る。
○第3ターゲット層 近隣の有力観光地（別府市・由布市等）を訪問した観光客
○選定の理由 有力観光地である別府市（222万人泊/令和5年）・由布市（32万人泊/令和5年）と連携し、両市を訪問した観光客が佐伯市へ訪れるきっかけづくりを行うことで温泉+αの旅を提供する。別府市とは令和2年度から連携事業を実施し、「別府から佐伯いこう」をテーマに別府に宿泊すると佐伯市内の飲食店で利用できる食事券を配布する事業を別府市旅館組合、別府市内宿泊施設と連携し展開。食事券の利用者は1,336名で利用者は大分県29.5%、福岡県26.8%、宮崎県15.4%となり県外からの利用者が70.5%と遠方から佐伯市へ訪れるための取り組みとして別府市を訪問した観光客への取組みは有効と考えている。由布市とは令和6年度から連携事業を開始し、由布市の宿泊・観光事業者を招聘し、佐伯市内での体験モニターを実施し、同内容を反映したパンフレットを由布市各施設へ配布することで由布市を訪れる観光客への発信を行った。同事業についても継続を予定している。その他九州管内等の有力観光地との連携について、今後幅広くに検討を行う。 ○取組方針 温泉+佐伯市での食・体験を発信し、観光客の満足度向上と佐伯市の認知度向上を図る。
○第4ターゲット層 韓国、台湾、香港からのインバウンド客
○選定の理由 当市のインバウンド客数は宿泊客調査において0.3万人（令和6年）となっており、大分県内全域のインバウンド宿泊者数108万人（令和6年）に対して0.27%の状況である。 市内宿泊施設のヒアリングではインバウンド向けのサービスや営業に対して、経験値が低い施設が多いものの、閑散期おける対応に関しては前向きという現状がある。 今後、人口減少等により国内旅行市場の縮小が懸念されることから市内施設からの聞き取り調査等を継続し、佐伯市のツーリズム戦略のターゲット国である台湾、韓国、香港からの誘客に向けたPRを行い、特に日本旅に慣れているリピーターを重点的に誘客する。 韓国・台湾は大分空港に直行便が就航しており、ターゲット国の令和6年度の大分県内での宿泊者数は、韓国508,617人（対前年比+21.9%）、台湾178,697人（対前年比+61.2%）、香港160,144人（対前年比+25%）と成長著しいことから、当市への誘客につなげたい。具体的な実績としては台湾の台中市と佐伯市は令和5年2月に「サイクルツーリズム及び観光友好交流の促進に関する協定書」を締結し令和6年度は台湾からのサイクリストのツアー4本71名がEバイクレンタル、袴着付けの体験を行った。 ○取組方針 市内宿泊施設・観光施設との対話による現状把握、理解向上、広域連携DMOと連携した現地商談会への参加

（4）観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	浦 100～100 年後も人の営みが豊かな浦を残す～  
②コンセプトの考え方	「佐伯の殿様 浦でもつ。(浦の恵みは山でもつ)」そう言い伝えられるほど、佐伯市は豊かな山、川、海をもつ。1623 年には佐伯藩は魚類の生息を守るため森林資源を残す触書を出し、これはSDGsの先駆けともいえる取り組みであり、400 年が経過した。次の 100 年に向け、佐伯市では「100 年後も人の営みが豊かな浦を残すにはどうすればいいだろうか」という問いを立て、山、川、海の自然の循環を観光コンテンツと捉え、自然の恵みを体感できる観光プログラムを参画者と共に考え、共に作り上げていき、併せて山・川・海の保全活動の推進を図っていくことで持続可能な観光地づくりを目指す。

5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。	理事会（年 2 回） 関連団体・事業者の代表による理事会を構成。 法人の予算・事業計画などの承認を行う。 事業推進委員会（年 4 回） 実施事業に対して、地域の関係者の意見及び提案等を調査並びに研究する。 委員会は市内宿泊事業者や体験事業者、広報誌編集者、道の駅駅長、公共交通機関事業者、行政、地域コンサル、大学助教などにより編成されており、特に地域の若手でこれからの佐伯観光を担う人材を中心により構成されている。 令和 7 年 5 月 22 日に第 1 回の事業推進委員会を開催し、以降四半期に 1 回のペースで開催を予定している。
観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築	事業による観光客向けのアンケート調査において事業の評価及び参加店舗の評価について項目を設けて回答を集約している。 特にツアー客向けのアンケート調査も実施しており、「改善が必要」という回答が過半数を超えた場合、店舗へその旨を伝え団体ツアー等の対応改善を依頼している。 高評価の店舗については自然と団体ツアーのリピーター化につながっている。 観光事業従事者の高齢化及び人材不足の課題解消に向けた取組みに関する検討を開始する。
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信・プロモーション	広報戦略を策定しそれに基づく情報発信を行う。当法人が主体的に発信をしながら、会員を中心に市内事業者の情報を集約し事業と合わせて一体的なプロモーションを図る。 また、市 HP トップページに観光 HP へのバナーを掲載し、市及び地域と一体となった情報発信を実施。

※各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

6. K P I（実績・目標）

※戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後3年間における明確な数値目標を記入すること。

※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去3年間の実績も記入すること。

（1）必須K P I

指標項目		2022 (R 4) 年度	2023 (R 5) 年度	2024 (R 6) 年度	2025 (R 7) 年度	2026 (R 8) 年度	2027 (R 9) 年度
●旅行消費額 (千円)	目	—	—	898,870	943,813	991,003	1,040,554
	標	(—)	(—)	()	()	()	()
	実績	826,653 ()	856,067 ()	744,941 ()			
●延べ宿泊者数 (人)	目	—	—	127,544	133,921	140,617	148,000
	標	(—)	(—)	()	()	()	()
	実績	144,497 (690)	160,117 (2,506)	139,036 (2,563)			
●来訪者満足度 (%)	目	—	—	77.7	79.2	80.7	82.3
	標	(—)	(—)	()	()	()	()
	実績	— ()	76.2 ()	宿泊 86.7 一般 91.0 ()			
●リピーター率 (%)	目	—	—	80	80	80	80
	標	(—)	(—)	(—)	()	()	()
	実績	— ()	78 ()	宿泊 86.7 一般 91.0 ()			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

【検討の経緯】

当法人は、佐伯市の観光並びにまちづくりと密接に関係する法人であり、事業推進及び観光マーケティングにあたって、密に連携協調を図る。KPIについては佐伯市第二次総合計画及びさいきツーリズム戦略 2024-2028 の数値を参考に、当法人中期経営戦略を根拠に設定する。

【設定にあたっての考え方】

必須 KPI の目標値については、佐伯市第二次総合計画（2018-2027）を基に中期経営戦略（2024.5～）を策定し同戦略で設定した数値を記載している。

佐伯市第二次総合計画で掲げられていない KPI については、当法人にて実績調査を行い、目標設定をしている。

なお、当法人中期経営戦略策定後、同年 6 月にさいきツーリズム戦略（2024-2028）が策定されたため今後、さいきツーリズム戦略を基に中期経営戦略を改定予定（改定時期未定）

●旅行消費額

さいきツーリズム戦略（2024-2028）KPI から設定（基準年度：令和 5 年度）

旅行消費額については中期経営戦略で設定していないため、さいきツーリズム戦略 2024-2028 の目標値を根拠とする。旅行消費額単価については、各キャンペーンにおける実績等により当法人中期経営戦略で設定している。

●延べ宿泊者数

佐伯市第二次総合計画を基に中期経営戦略 KPI から設定（基準年度：令和 5 年度）

令和 6 年までは佐伯市が宿泊者数等を収集していたが、令和 7 年からは法人独自で宿泊客数・入込客数調査を実施している。なお、計測方法（計測地点等）については佐伯市が実施していた方法を踏襲している。

なお、目標値については今後最新の市の戦略（さいきツーリズム戦略）を根拠に法人の中期経営戦略を修正し、目標値を再設定予定。（※法人戦略修正時期未定のため、現状は佐伯市第二次総合計画上の目標値を記載している。）

●来訪者満足度

中期経営戦略 KPI から設定（基準年度：令和 5 年度）

中期経営戦略の数値は法人独自で調査し設定している。

戦略策定後、当法人にて宿泊者と一般観光客を分けてアンケート調査を実施。

目標設定時点では宿泊者と一般観光客を分けて計測することを想定していなかったため、目標値は合算で設定している。

●リピーター率

中期経営戦略 KPI から設定（基準年度：令和 5 年度）

中期経営戦略の数値は法人独自で調査し設定している。

戦略策定後、当法人にて宿泊者と一般観光客を分けてアンケート調査を実施。

目標設定時点では宿泊者と一般観光客を分けて計測することを想定していなかったため、目標値は合算で設定している。

リピーター率を 80% で設定している理由は、新規顧客の獲得を一定数目指すため。

※インバウンドに関するデータ（旅行消費額、来訪者満足度、リピーター率）について現状は把握ができていないが、市内宿泊施設・観光施設からのヒアリング等を実施しインバウンド誘致の機運醸成を行うとともに、ターゲット国からの団体ツアーへのアンケート調査を検討する。

（２）その他の目標

指標項目		2022 (R4) 年度	2023 (R5) 年度	2024 (R6) 年度	2025 (R7) 年度	2026 (R8) 年度	2027 (R9) 年度
●EC サイト・ふるさと納税返	目標	— (—)	— ()	462 ()	578 ()	722 ()	903 ()

礼品売上額 (万円)	実績	—	370	444			
		(—)	()	()			
●佐伯産品開発 累積数 (件)	目標	—	—	10	13	16	19
		(—)	()	()	()	()	()
	実績	—	7	10			
		(—)	()	()			
●着地型商品開 発累積数	目標	—	—	10	15	18	19
		(—)	()	()	()	()	()
	実績	—	7	11			
		(—)	()	()			
●web サイトア クセス数 (件)	目標	—	—	450,000	550,000	670,000	820,000
		(—)	()	()	()	()	()
	実績	—	370,380	493,613			
		(—)	()	()			
●SNS フォロワ ー数 (人)	目標	—	—	9,811	9,909	10,404	10,924
		(—)	()	()	()	()	()
	実績	—	9,344	9,179			
		(—)	()	()			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

※各指標項目の単位を記入すること。

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

当法人の中期経営戦略で各 KPI を設定した。「地域の稼ぐ力を引き出す」ための取組みとして、観光消費を向上させるための取り組みや認知度向上を目的とした事業推進のため目標数値の検討を行った。

【設定にあたっての考え方】

- EC サイト・ふるさと納税返礼品売上額
中期経営戦略 KPI から設定 (基準年度: 令和 5 年度)
- 佐伯産品開発累積数
中期経営戦略 KPI から設定 (基準年度: 令和 5 年度)
- 着地型商品開発累積数
中期経営戦略 KPI から設定 (基準年度: 令和 5 年度)
- web サイトアクセス数
中期経営戦略 KPI から設定 (基準年度: 令和 5 年度)
- SNS フォロワー数
中期経営戦略 KPI から設定 (基準年度: 令和 5 年度)

※住民満足度について、佐伯市の総合計画に関する住民調査を活用予定

7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

※少なくとも今後3年間について、計画年度毎に（１）収入、（２）支出を記入すること。

※現に活動している法人にあっては、過去3年間の実績も記入すること。

（１）収入

年（年度）	総収入（円）	内訳（具体的に記入すること）
2022（R4） 年度	（円）	
2023（R5） 年度	（円）	（円）
2024（R6） 年度	152,461,000（円）	【県からの補助金】 11,340,000 円 【その他補助金】 2,550,000 円 【市町村からの委託金】 123,659,000 円 【事業収益】 14,810,000 円 【雑収益】 102,000 円
2025（R7） 年度	130,066,000（円）	【市町村からの委託金】 107,166,000 円 【その他補助金】 2,700,000 円 【事業収益】 20,000,000 円 【特別会費等】 195,000 円 【雑収益】 5,000 円
2026（R8） 年度	140,000,000（円）	【市町村からの委託金】 114,050,000 円 【その他補助金】 750,000 円 【事業収益】 25,000,000 円 【特別会費等】 195,000 円 【雑収益】 5,000 円
2027（R9） 年度	140,000,000（円）	【市町村からの委託金】 109,800,000 円 【事業収益】 30,000,000 円 【特別会費等】 195,000 円 【雑収益】 5,000 円

（２）支出

年（年度）	総支出	内訳（具体的に記入すること）
2022（R4） 年度	（円）	

2023 (R5) 年度	(円)	
2024 (R6) 年度	152,461,000 (円)	【一般管理費】 25,470,000 円 【国内誘客推進】 40,400,000 円 【まちづくり推進】 36,123,000 円 【情報発信・プロモーション】 15,670,000 円 【着地型等コンテンツ開発】 16,462,000 円 【佐伯産品開発・販売】 9,920,000 円 【観光施設等管理】 8,416,000 円
2025 (R7) 年度	130,066,000 (円)	【一般管理費】 25,479,000 円 【国内誘客推進】 40,628,000 円 【インバウンド推進】 981,000 円 【まちづくり推進】 17,821,000 円 【情報発信・プロモーション】 10,866,000 円 【着地型等コンテンツ開発】 8,220,000 円 【佐伯産品開発・販売】 16,500,000 円 【観光施設等管理】 9,571,000
2026 (R8) 年度	140,000,000 (円)	【一般管理費】 25,479,000 円 【国内誘客推進】 32,728,000 円 【インバウンド推進】 5,981,000 円 【まちづくり推進】 17,821,000 円 【情報発信・プロモーション】 10,866,000 円 【着地型等コンテンツ開発】 8,220,000 円 【佐伯産品開発・販売】 26,500,000 円 【観光施設等管理】 12,405,000 円
2027 (R9) 年度	140,000,000 (円)	【一般管理費】 25,479,000 円 【国内誘客推進】 22,728,000 円 【インバウンド推進】 5,981,000 円 【まちづくり推進】 17,821,000 円 【情報発信・プロモーション】 16,866,000 円 【着地型等コンテンツ開発】 8,720,000 円 【佐伯産品開発・販売】 30,000,000 円 【観光施設等管理】 12,405,000 円

(3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

(市町村委託料)

観光プローション事業を始めとする佐伯市の各種委託事業を積極的に確保することで法人運営の基盤財源の確保を図る。

(公共施設管理事業収入)

国及び佐伯市等の施設管理運営に係る受託により安定的な財源確保を図る。

特に既存の施設の指定管理受託や市営駐車場等の管理をはじめ、既存の観光施設の活用に向けた提案を市に対して行う。

(佐伯産品の開発・販売)

佐伯産品、オーガニック商品を中心にギフト商品やふるさと納税返礼品を企画し販売する。
市内だけでなく、市外や県外に販路を拡げることを目指して取扱商品数を増やしなが、EC サイトによる取引を中心に事業拡大を進める。

ふるさと納税返礼品の返礼品ビジネスだけではなく旅行商品企画・販売事業や各種食キャンペーン等においてもその可能性を広げる取組みとして、新たなソーシャルテクノロジーの導入を進め、地域商社機能の強化を図る。

（旅行商品企画・販売）

さいきレトリップ（袴の着付体験）やEバイクを活用したツアーを国内向けだけではなくインバウンド商品としても積極的にPRすることで、自主事業の柱の一つとして発展させる取組みを進める。

新しい旅行商品の企画開発を進め取扱商品数の拡大を図るとともに前述の新しい取組みを推進することで、旅行業収入の拡大を目指す。

8. 観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

佐伯市は、一般財団法人観光まちづくり佐伯を当該都道府県及び市町村における地域DMOとして登録したいので一般財団法人観光まちづくり佐伯とともに申請します。

9. マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携DMO（県単位以外）や地域DMOと重複する場合の役割分担について（※重複しない場合は記載不要）

10. 記入担当者連絡先

担当者氏名	半田 慎二
担当部署名（役職）	CMO（事業推進部長）
郵便番号	876-0854
所在地	大分県佐伯市中村南町 3-2
電話番号（直通）	0972-23-1101
F A X 番号	0972-23-1146
E - m a i l	info@kanmasa.jp

11. 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県・市町村名	大分県
担当者氏名	江藤 憲幸、清田 弘祐
担当部署名（役職）	南部振興局地域創生部地域創生班 主幹（総括）、副主幹
郵便番号	876-0813
所在地	大分県佐伯市長島町 1-2-1（佐伯総合庁舎内）
電話番号（直通）	0972-22-9073
F A X 番号	0972-23-0942
E - m a i l	a11606@pref.oita.lg.jp

都道府県・市町村名	大分県佐伯市
担当者氏名	近藤 健一
担当部署名（役職）	観光ブランド推進部観光・国際交流課観光係（総括主幹）
郵便番号	876-8585
所在地	大分県佐伯市中村南町 1-1
電話番号（直通）	0972-22-3942
F A X 番号	0972-22-0025
E - m a i l	kankouka@city.saiki.lg.jp

都道府県・市町村名	大分県佐伯市
担当者氏名	戸高 博彦
担当部署名（役職）	地域振興部地域振興課ふるさと振興係（課長補佐兼総括主幹）
郵便番号	876-8585
所在地	大分県佐伯市中村南町 1-1
電話番号（直通）	0972-22-3033
F A X 番号	0972-22-0025
E - m a i l	shinko@city.saiki.lg.jp

基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】 大分県佐伯市
【設立時期】 令和6年2月7日
【設立経緯】
民間主導の観光まちづくりを目指し、一般社団法人佐伯市観光協会と株式会社まちづくり佐伯の発展的統合により設立。
【代表者】 理事長 池邊 恭行
【マーケティング責任者(CMO)】 半田 慎二
【財務責任者(CFO)】 山本 弘幸
【職員数】 26人(常勤19人(正職員14人・出向等5人)、非常勤7人)
【主な収入】 令和6年度 152,461千円
自主事業収入 14,810千円 公共施設管理受託 10,100千円
佐伯市事業受託 113,559千円 その他 13,992千円
【総支出】 令和6年度 152,461千円
事業費 126,991千円 管理費 25,470千円
【連携する主な事業者】
佐伯市、佐伯商工会議所、佐伯市番匠商工会、佐伯市あまべ商工会、佐伯セントラルホテル、道の駅指定管理者(やよい、かまえ、宇目)、JR九州、NEXCO西日本九州支社、(株)JTB、東武トップツアーズ株式会社、立命館アジア太平洋大学、大分銀行、株式会社タイミー

KPI(実績・目標)

記入日: 令和7年 10月 3日

※()内は外国人に関するもの。

項目		2022 (R4)年度	2023 (R5)年度	2024 (R6)年度	2025 (R7)年度	2026 (R8)年度	2027 (R9)年度
旅行消費額 (千円)	目標	()	()	898,870 ()	943,813 ()	991,003 ()	1,040,554 ()
	実績	826,653 ()	856,067 ()	744,941 ()	—	—	—
延べ宿泊者数 (人)	目標	()	()	127,544 ()	133,921 ()	140,617 ()	148,000 ()
	実績	144,497 (690)	160,117 (2,506)	139,036 (2,563)	—	—	—
来訪者満足度 (%)	目標	()	()	77.7 ()	79.2 ()	80.7 ()	82.3 ()
	実績	()	76.2 ()	宿泊86.7 一般91.0 ()	—	—	—
リピーター率 (%)	目標	()	()	80 ()	80 ()	80 ()	80 ()
	実績	()	78 ()	宿泊86.7 一般91.0 ()	—	—	—

戦略

【主なターゲット】
・福岡県、宮崎県、大分県
・別府市、由布市を訪問した観光客
・韓国、台湾からのインバウンド
【ターゲットの誘客に向けた取組方針】
・旅行会社と連携した商品造成
・温泉 + α のコンテンツPR
・インバウンド受入れ調査
【観光地域づくりのコンセプト】
・地域と一体となって新たな観光コンセプト
「浦100」を中心とした持続可能な観光まちづくりを目指します。

具体的な取組

【観光資源の磨き上げ】
・浦100ツーリズムによる地域再生事業
・佐伯本舗城下堂事業
・さいきレトリップ事業
・お土産物開発販売事業
【情報発信・プロモーション】
・JR九州観光列車おもてなし事業
・観光情報発信事業
・国内誘客事業
・自転車活用推進事業
・クルーズ船受入事業
【受入環境整備】
・レンタサイクル事業
・市街地人と仕事創造事業
・チャレンジショップ事業
【その他】
・市街地人と仕事創造事業
・チャレンジショップ事業
・地域産業教育促進事業

新たな観光コンセプト「浦100」

